

上関地点 2024年度 環境監視調査結果について(報告書の概要)

水質調査結果は、管理目標値を満足していた。

陸生、海生生物については、過去の調査結果と比較して顕著な変化は見られなかった。

項 目		調査時期	調 査 結 果 概 要		
水 質	陸域工事 排 水 の 水 質	月1回	水素イオン濃度、浮遊物質量ともに管理目標値内であった。		
			項 目	調査結果	管理目標値
			水素イオン濃度	6.7～8.0	5.0以上9.0以下
			浮遊物質量 (日平均値)	6mg/L 以下	150mg/L 以下
陸 生 生 物	ハヤブサ	4月:2回/月 5月:2回/月 6月:2回/月 2月:1回/月 3月:2回/月	4月に1羽のヒナを確認したが、5月、6月に巣立ちした幼鳥を確認できなかったことから、繁殖は失敗したと考えられる。 なお、親鳥は各月で確認した。		写 真 1
	植生	年1回 5月13、14日	イヨカズラを5箇所11株、ジュウニヒトエを26箇所195株、イヌノフグリを4箇所43株、キンランを1箇所1株、ギンランを1箇所1株、ビヤクシンを1箇所1株確認した。		写 真 2
海 生 生 物	潮間帯生物	年2回 4月9、10日 9月30、10月1、2日	植物ではクロメ、ヒジキなど59種、動物ではアマガイ、カメノテなど52種を確認した。 【確認種類数】・植物:春57種、秋32種 ・動物:春46種、秋41種		写 真 3
	海藻草類		ワカメ、クロメなど58種を確認した。 【確認種類数】春49種、秋36種		
	底生生物		アカウニなど5種を確認した。 【確認種類数】春5種、秋4種		
	スナメリ	3月～10月※ ¹ (週1回・計32日)	確認回数は計65回、延べ165頭を確認した。		写 真 4
	カクメイ科等の貝類	年4回 5月7～9日 8月7～9日 12月2～4日 2月12、13日	カクメイ科等の貝類は確認されなかった。 タイドプール※ ² 2箇所のうち1箇所は、2010年に岩盤の崩落が確認されて以降、引き続き崩落の恐れがあるため、1箇所調査を実施した。		—

※1 スナメリ調査は2024年3月から開始

※2 タイドプール:干潮時に海辺の岩場にできる潮だまり

【参考】

《環境監視計画以外の環境調査》

○ カンムリウミスズメ(写真5)

計画地点周辺海域において4回延べ7個体を確認した。

計画地点周辺海域において広く確認されたが、工事施行区域内での出現はなかった。

○ カラスバト(写真6)

計画地点において、姿および鳴き声は確認されなかった。

鼻繰島においては、4月に鳴き声、5月、1月に姿、7月、9月、10月、2月、3月に姿および鳴き声を確認した。

○ クロサギ(写真7)

4月から6月の各月で周辺の岩場等で1羽が確認され、7月に2羽の幼鳥が確認されたが、既知営巣地の利用は確認されなかった。繁殖は確認されなかったが、今後も引き続き生息状況を確認する。

○ ミサゴ(写真8)

鼻線島において、7月に巣立ち後の幼鳥3羽を確認したことから繁殖は成功した。
天田島においても、6月に巣立ち後の幼鳥1羽を確認したことから繁殖は成功した。
今後も繁殖が継続して行われる可能性があるため、引き続き生息状況を確認する。

【調査写真】

写真1:ハヤブサ



(4月9日(巣に入る親鳥))



(5月7日(親鳥(雌)))

写真2:植生



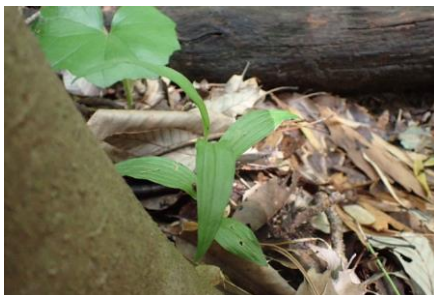
イヨカズラ(5月13日)



ジュウニヒトエ(5月13日)



イヌノフグリ(5月14日)



キンラン(5月13日)



ギンラン(5月13日)

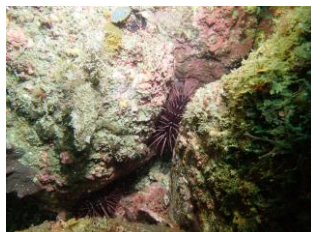


ビャクシン(5月13日)

写真3:潮間帯生物、海藻草類、底生生物



クロメ(4月10日)



アカウニ(4月10日)



ヒジキ(9月30日)



カメノテ(10月2日)

写真4:スナメリ



(6月12日)

写真5:カンムリウミスズメ



(7月2日)

写真6:カラスバト



(9月26日)

写真7:クロサギ



(7月5日)

写真8:ミサゴ



(5月21日 親鳥・ヒナ〔鼻繰島〕)



(5月21日 親鳥(雌)〔天田島〕)

環境監視委員会 委員からのコメント

【2024年度環境監視調査結果について】

項目	主なコメント
水質 (陸域工事排水)	水質調査結果は管理目標値内であり、大きな変化は見られておらず、環境保全措置が適切に実施されている。
陸生生物 (ハヤブサ)	2024年度は、巣立ちした幼鳥を確認できていないため、繁殖は失敗したと考えられるが、親鳥の生息を各月で確認しており、引き続き状況を確認すること。
陸生生物 (植生)	経年変化は過年度のデータから見ても自然変動の範囲内であり、工事のない状況においても自然要因による増減が確認されている。
海生生物 (潮間帯生物、海藻草類、 底生生物)	経年比較すると、主な出現種の上位種に変動があることから、瀬戸内海的环境も変化していると考えられるため、継続して状況を確認すること。
海生生物 (スナメリ)	経年比較すると、1回確認当たりの頭数は過年度調査とほぼ同等であることが確認でき、顕著な変化は見られていない。
海生生物 (カクメイ科等の貝類)	カクメイ科の貝類は確認されておらず、タイドプールの水質、底質についても過年度調査の変動範囲内で、顕著な変化は見られないため、環境保全上、問題ない。

【その他について】

項目	主なコメント
クロサギ	2024年度は、繁殖は確認できなかったが、引き続き生息状況を確認する必要がある。
ミサゴ	2024年度は、鼻繰島・天田島で幼鳥の巣立ちを確認しており、引き続き生息状況を確認する必要がある。

以 上